

2009年3月期 中間決算説明会



株式会社エフピコ
2008年11月11日

本説明会のプレゼンテーションおよび配布資料に掲載する情報に関しまして、細心の注意を払っております。将来の予測等に関する情報は、現時点で入手可能な情報にもとづき、当社が判断した予測であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、様々な要因の変化により実際の業績は、記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

本説明会の配布資料に掲載する情報は、無断での引用や転載、複製は禁じられております。

= 目次 =

◆ <u>実績報告</u>	経理財務本部長	瀧崎 俊男	3
◆ <u>中期経営計画への重点取組</u>	代表取締役社長	小松 安弘	9
◆ <u>企業価値拡大へ向けて</u>	代表取締役副社長	佐藤 守正	23
◆ 業績予想			38
◆ 添付資料			42

実績報告

2009年3月期 第2四半期累計

経理財務本部長
瀧崎 俊男

販売の状況(2009年3月期 第2四半期累計)



	実績		08/9月		増減	前年比	計画		
	07/9月	百分比	08/9月	百分比			08/9月	百分比	達成率
ト レ ー 容 器	13,512	21.5	13,812	21.4	+ 299	102.1%	13,600	21.2	101.6%
弁 当 容 器	32,841	52.3	33,368	51.8	+ 526	101.6%	35,600	55.4	93.7%
そ の 他 製 品	700	1.1	919	1.4	+ 219	131.3%	540	0.8	170.4%
【 製 品 】	47,054	75.0	48,100	74.6	+ 1,045	102.2%	49,740	77.4	96.7%
包 装 資 材	9,854	15.7	9,196	14.3	△ 658	93.3%	8,920	13.9	103.1%
そ の 他 商 品	5,859	9.3	7,152	11.1	+ 1,293	122.1%	5,640	8.8	126.8%
【 商 品 】	15,714	25.0	16,349	25.4	+ 635	104.0%	14,560	22.6	112.3%
【 売 上 高 】	62,769	100.0	64,449	100.0	+ 1,680	102.7%	64,300	100.0	100.2%

数量伸長率(枚数)

単位:百万円

※計画は、2008年5月9日発表の業績予想であります。

- 製品 出荷枚数 前年比101.2%伸長
- ・8月21日出荷分より製品価格の改定実施
 - ・トレー容器: 超軽量化ロースタックトレーのFLBシリーズが好調
 - ・弁当容器: 個食化の進行により、弁当惣菜容器が好調
PET素材製品、折箱タイプの新製品の引き合いも順調

- 商品
- ・包装資材等の推奨商品への絞込みと不採算取引の見直しを実施。
 - ・その他商品は、販売用美術骨董品の売上1,333百万円を含む。

ご参考: 販売用美術骨董品を除く。

そ の 他 商 品	5,859	5,819	△ 39	99.3%	5,640	103.2%
【 商 品 】	15,714	15,016	△ 698	95.6%	14,560	103.1%
【 売 上 高 】	62,769	63,116	+ 347	100.6%	64,300	98.2%

決算概要(2009年3月期 第2四半期累計)



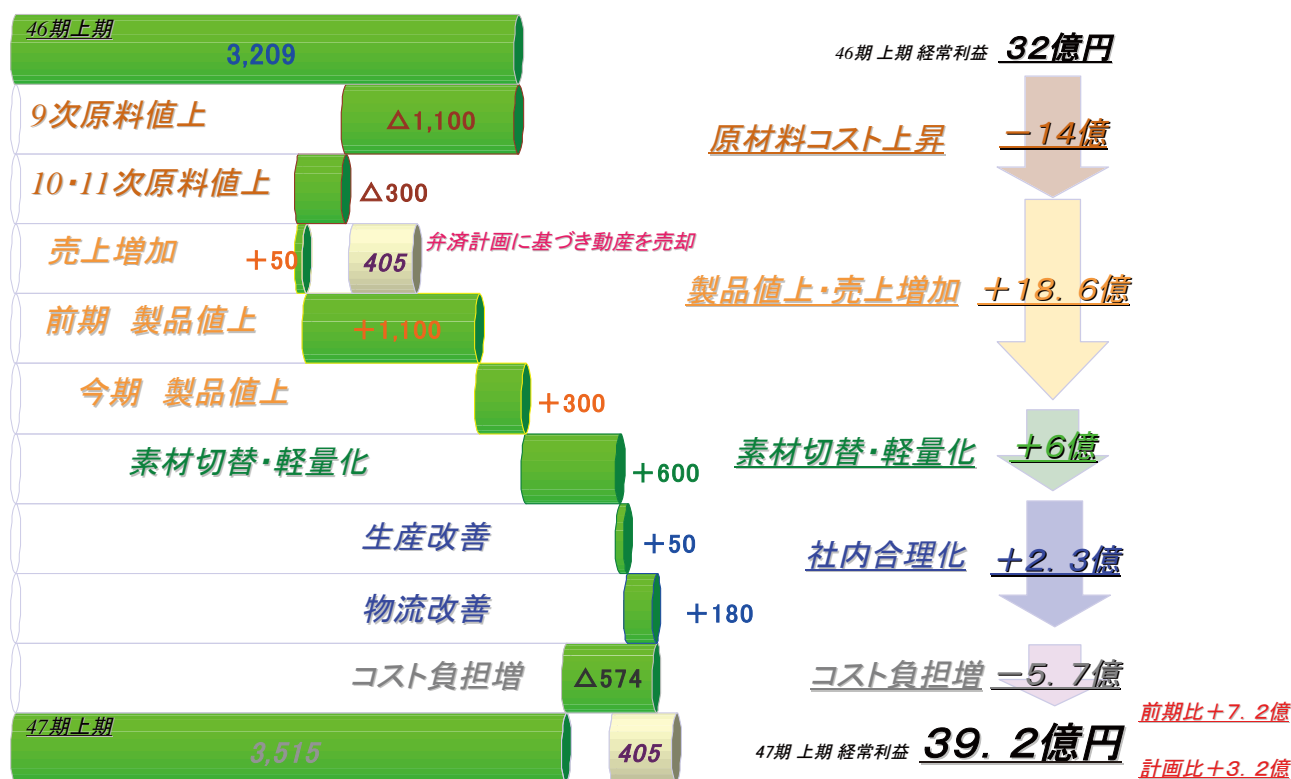
単位:百万円

	実績		08/9月		増減	前年比	計画		
	07/9月	百分比	08/9月	百分比			08/9月	百分比	達成率
【純売上高】	62,769	100.0	64,449	100.0	+ 1,680	102.7%	64,300	100.0	100.2%
製品売上高	47,054	75.0	48,100	74.6	+ 1,045	102.2%	49,740	77.4	96.7%
商品売上高	15,714	25.0	16,349	25.4	+ 635	104.0%	14,560	22.6	112.3%
【営業利益】	2,945	4.7	3,723	5.8	+ 778	126.4%	3,360	5.2	110.8%
【経常利益】	3,209	5.1	3,920	6.1	+ 710	122.1%	3,600	5.6	108.9%
【税引前利益】	3,236	5.2	3,801	5.9	+ 564	117.4%	3,600	5.6	105.6%
【当期利益】	2,071	3.3	2,325	3.6	+ 253	112.3%	2,160	3.4	107.7%

※計画は、2008年5月9日発表の業績予想であります。

原料面：主力製品の原材料PS、PP価格の断続的な値上がりに加え、段ボールなどの副資材の値上がり
 販売面：8月21日出荷分より製品価格の改定実施（PSP、APET、PW折箱容器は10%以上、OPS、PPなどは15%以上）
 全製品の軽量化提案、PSからAPETへの素材変更提案。アイテムの絞込み。
 技術面：素材の薄肉化、製品の軽量化をはじめとした生産コストの削減。
 生産面：生産性および品質の向上に取り組み、需要拡大に対応した生産能力の拡大と生産拠点の最適化。
 物流面：需要に即した供給体制の構築。在庫水準の適正化、横持ち・保管にかかわるコストの低減。

2008年3月中間期 経常利益 増減要因



単位:百万円

設備投資および研究開発費の状況(2009年3月期 第2四半期累計)

単位:百万円

	実績				計画	
	07/9月	08/9月	増減	前年比	08/9月	計画比
有形固定資産	5,607	5,141	△ 466	91.7%	3,500	146.9%
内、土地	416	1,286	870		400	
無形固定資産	106	455	349	429.2%	200	227.5%
減価償却費	2,204	2,291	87	103.9%	2,400	95.5%
研究開発費	466	487	21	104.5%	480	101.5%

おもな設備投資

◆福山新倉庫および福山容器回収選別工場	1,574百万円	※土地を含む
◆透明容器設備の強化	636百万円	
◆金型	336百万円	
◆北海道配送センター	485百万円	
◆透明回収選別工場 等	467百万円	
◆IT投資	323百万円	

キャッシュ・フローの状況(2009年3月期 第2四半期累計)

単位:百万円

	実績	
	07/9月	08/9月
営業活動によるC/F	3,448	5,171
投資活動によるC/F	△ 4,235	△ 5,017
フリー・キャッシュフロー	△ 787	154
財務活動によるC/F	△ 254	1,522
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,042	1,676
現金及び現金同等物の高	7,480	9,901

■営業活動によるキャッシュフロー

税金等調整前四半期純利益	3,801 百万円
減価償却費	2,291
売上債権の増加	△2,301
たな卸資産の減少	1,045

■投資活動によるキャッシュフロー

有形固定資産の取得	△4,863 百万円
無形固定資産の取得	△435
長期貸付金の減少	272

■財務活動によるキャッシュフロー

借入金の純増加額	2,891 百万円
自己株式の取得	△732
配当金の支払額	△632

中期経営計画への重点取組

代表取締役社長
小松 安弘

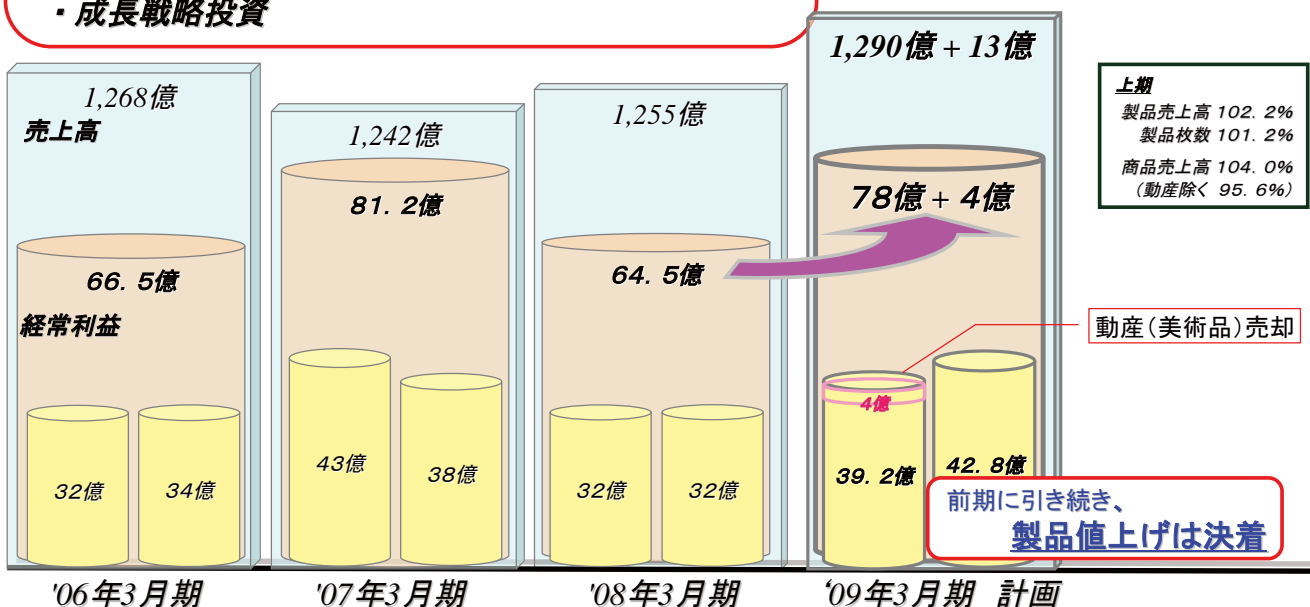
2009年3月期 概況



《上期 事業ポイント》

- ・ 前期に引き続き、大幅な値上げ幅での原料価格上昇
- ・ 素材切替、薄肉・軽量化と社内合理化の推進
- ・ 今期原料値上がり分を製品値上げ
- ・ 成長戦略投資

原材料と業界の動向



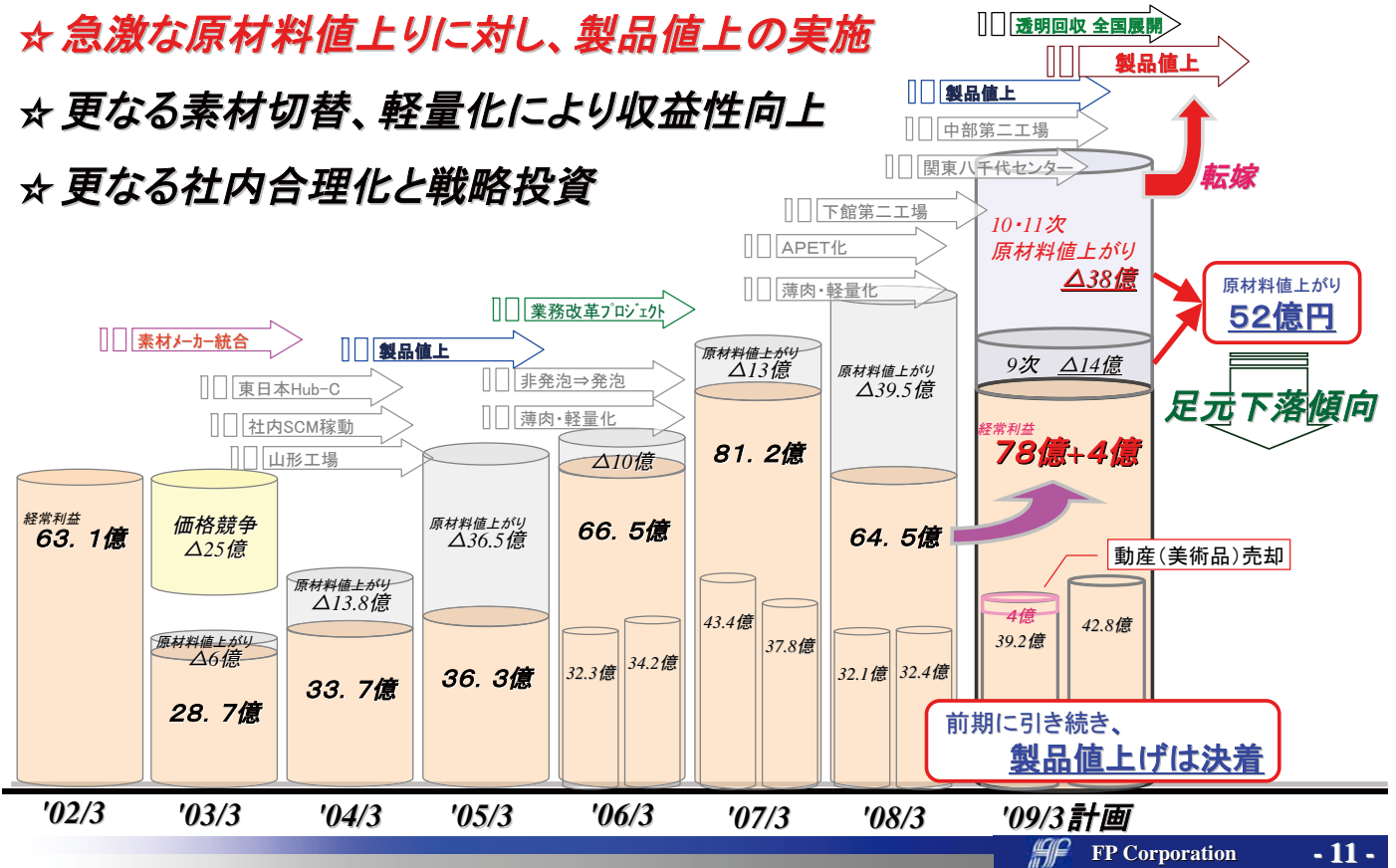
中期経営計画 見通し



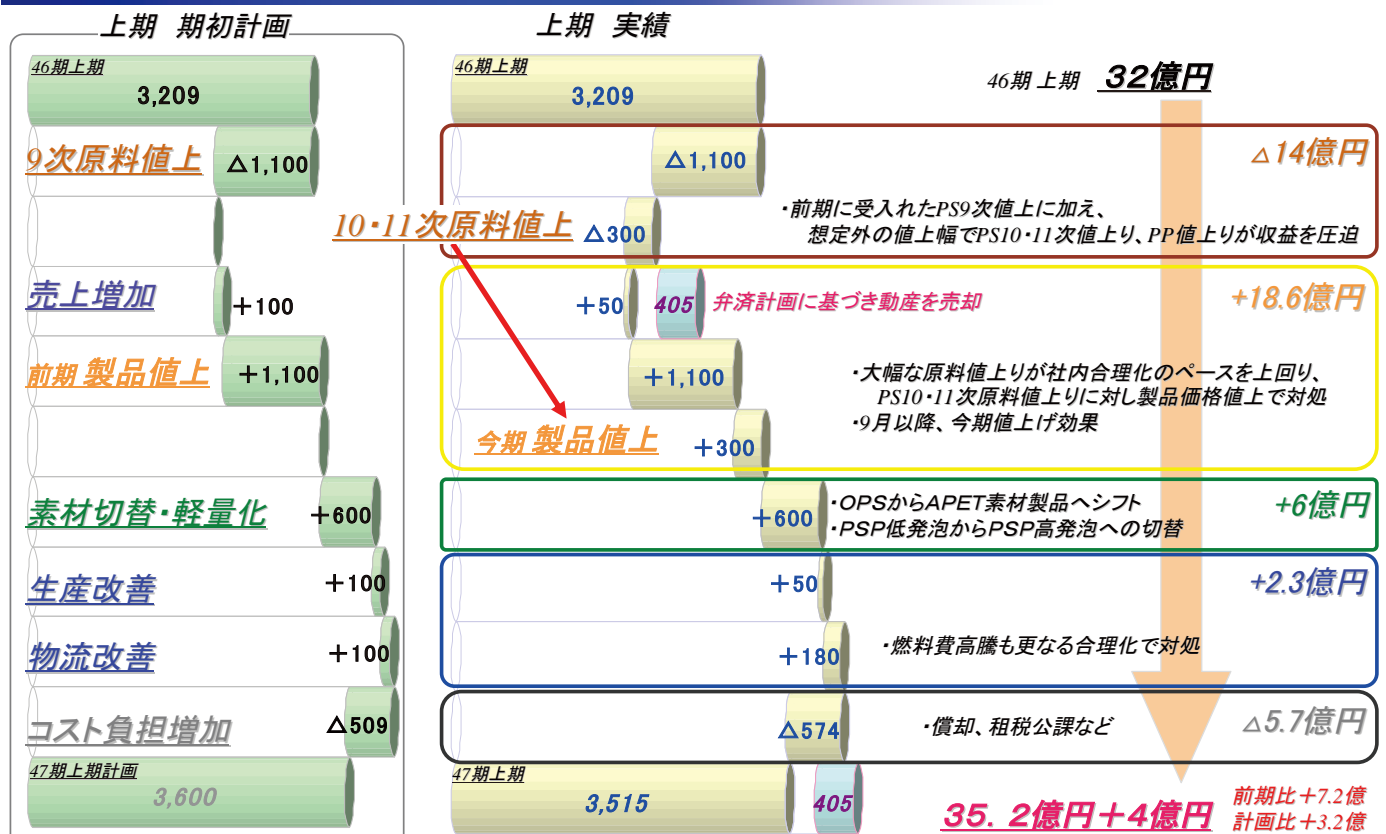
★ 急激な原材料値上りに対し、製品値上の実施

★ 更なる素材切替、軽量化により収益性向上

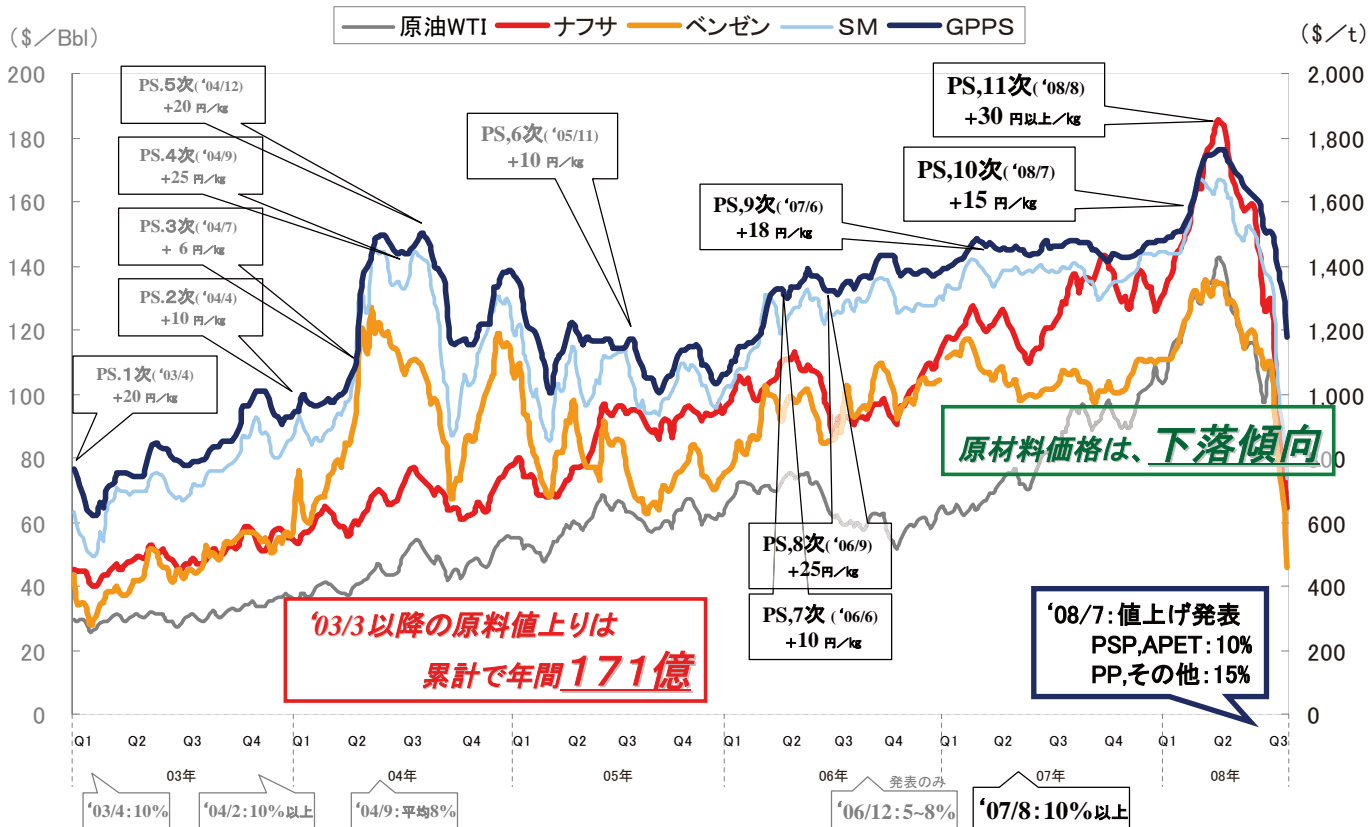
★ 更なる社内合理化と戦略投資



2009年3月期上期 経常利益増減要因



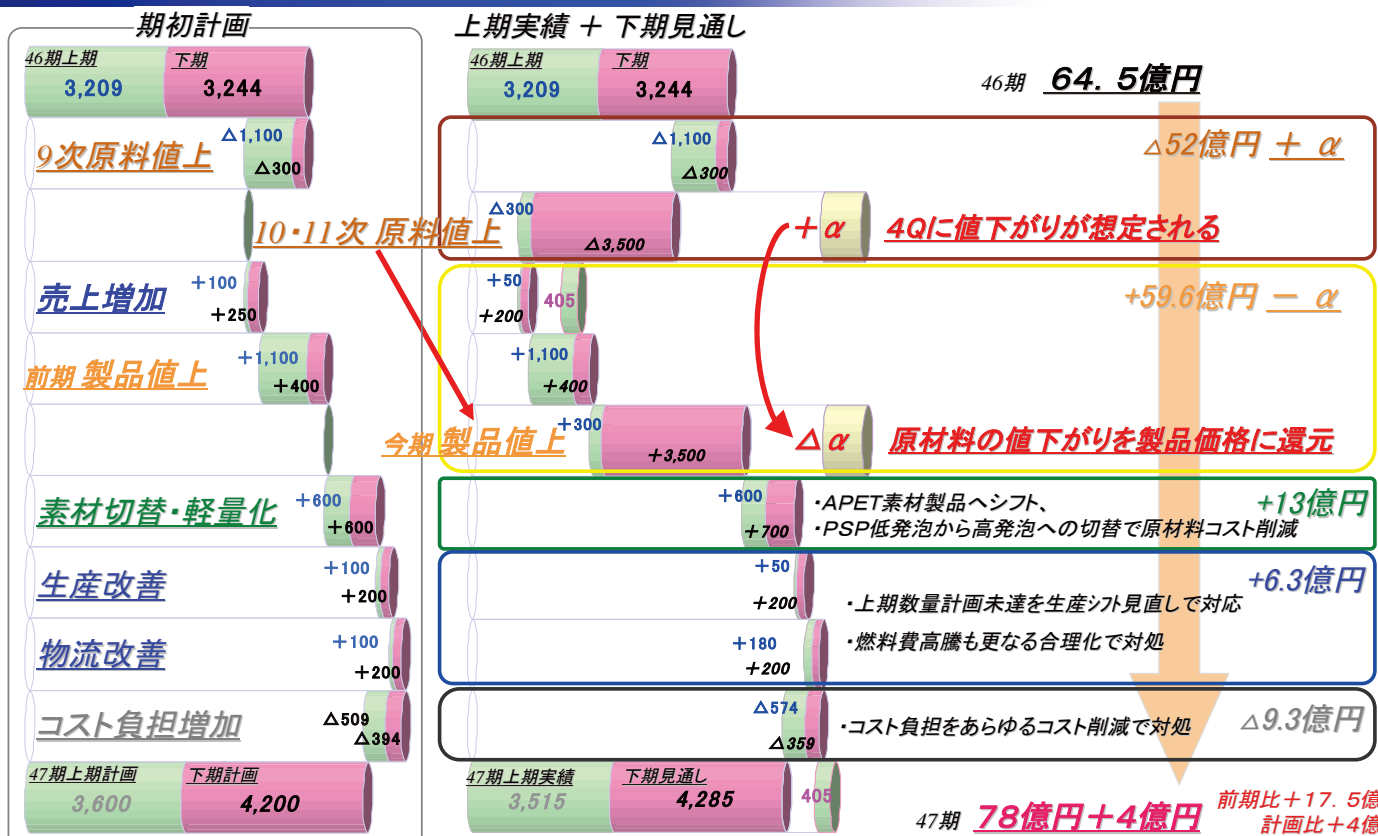
原油及び原料価格の動向～レジメーカーの値上げ打出し状況～



当社値上げ発表

FP Corporation

2009年3月期 経常利益見通し



単位: 百万円

FP Corporation

原材料価格上昇と製品値上の状況

☆原材料価格上昇

前期に続き大幅な原料値上がりが押し寄せる

- ~PSP: 前期の9次に続き想定を超える値上幅で10・11次値上り
- ~PP: ナフサ価格に連動し断続的に値上り
- ~副資材: 段ボール・ポリ袋など値上り

⇒ 足元下落傾向であるが、需給関係の変化など、先行き不透明

☆製品値上

原料値上がりが社内合理化のペースを上回り、製品価格へ転嫁

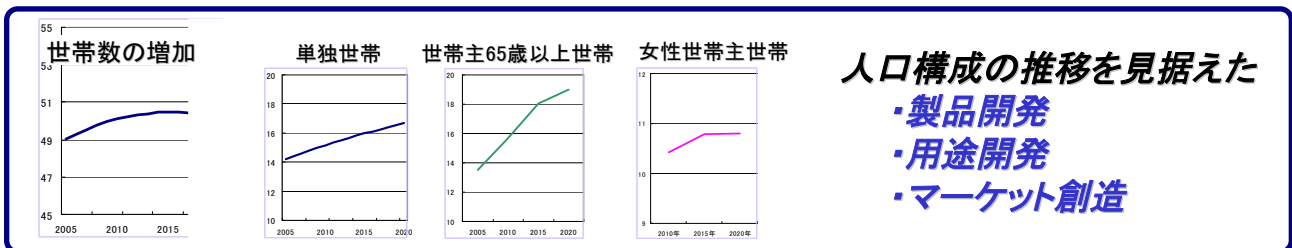
- ~PSP、APET: 軽量化と素材切替効果を見込めるも10%の値上
- ~PSソリッド、PP系: 今期の原料値上幅を鑑み15%の値上

⇒ 非常に厳しい交渉ながらも、決着

⇔ 社内合理化のペースを早め、

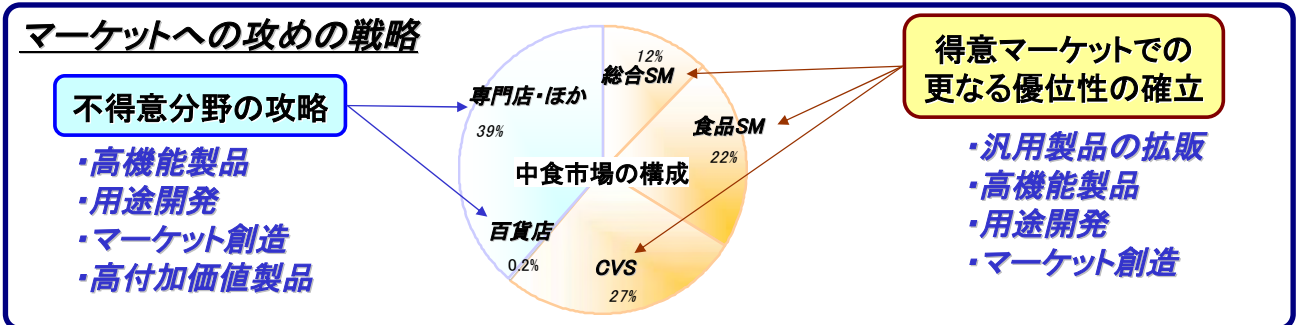
原材料価格値下がり製品価格へ還元

マーケットと消費動向



人口構成の推移を見据えた

- ・製品開発
- ・用途開発
- ・マーケット創造



- ☆消費者の食に対する行動は、
- > 外食から中食そして内食へ
 - > 買上げ点数の減少
 - > 高付加価値品からワンランク下へ

消費動向を先取りした
製品開発

① PSP製品の更なる軽量化と集約

⇒ 汎用トレーマーケットへの拡販

☆ 超軽量汎用トレー FLBシリーズ

※ 汎用トレー市場におけるシェア拡大への戦略製品
 ※ FLSに比較し、さらにロースタック、さらに軽量

☆ 超軽量汎用エコトレー エコFLBシリーズ

※ お客様に、容器包装リサイクル法・CO2削減で貢献

FLB軽量化

1992E	RA-LAシリーズ	5.00g
2000E	RA-LBシリーズ	4.50g
2003E	エコFLBシリーズ	4.34g
2007E	エコFLBシリーズ	3.75g
2008E	エコFLB新シリーズ	3.52g
	エコFLB新々シリーズ	3.41g

エコトレーも16年間で30%超の軽量化
 (1992Eと2008Eを比較)を実現しています。

30%超の軽量化

汎用トレー-FLBに透明蓋ができました。

ハンドラップより簡単に包装できます。

12サイズ登場!

汎用トレーなのにこんなに見映えが良くなります。

品質面でも市場の要求を満たす

汎用トレー用透明蓋を上市

② APETへの素材シフト及び薄肉・軽量化 原材料コスト削減

☆ APET素材への切替

・OPS製品 → ・APET素材へ
 ・CS製品
 PS素材透明容器

安心して使用頂ける強度を確保

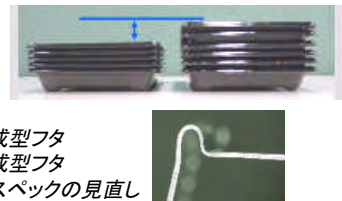
☆ 薄肉・軽量化

・PSP発泡製品 →
 ・10%～最大40%超の軽量化
 ・25%のスタック性改善

・金型変更
 ・両面真空成型
 ・低発泡→高発泡

・透明製品 (APET) → ・7%～16%の軽量化

・系尻成型フタ
 ・凸型成型フタ
 ・製品スペックの見直し



③ 高付加価値 及び 機能 による マーケット拡大 上質化・個食化・新マーケットへの対応

☆ 新折箱タイプ容器

☆ APET素材による漏れにくい容器

☆ 嵌合フードパック

☆ PP素材による容器・蓋

☆ 新デザイン容器

☆ 耐熱容器

WPS新型折容器

漏れにくい容器

嵌合フードパック

【嵌み合わせ】
 傾いた積み重ねも崩壊しにくく、積み重ねやすくなります。

【発泡成型】
 最大面と本体の外周に施した、凹凸を生み出す。当社独自の成型加工法。

【ユニバーサルデザインの蓋】
 傾いた方もきちんと認められる「傾斜リブ」を採用。

【外側の重ね方】
 蓋のあけ口部分が一目で判別し、少ない力で開封できるようになりました。

【内側の重ね方】
 蓋のつまみ部分を大きくしました。

ユニバーサルデザインの創出

エコトレー「食肉トレー」専用の「ユニバーサルデザイン」を開発し、使いやすさを追求して開発してあります。

【蓋の開け方】は、傾斜リブの凹凸で、少ない力で開けられる「傾斜リブ」を採用。

耐熱温度約110℃のPP透明嵌合フードパック

④ アイテムの集約と製品ラインナップの見直し

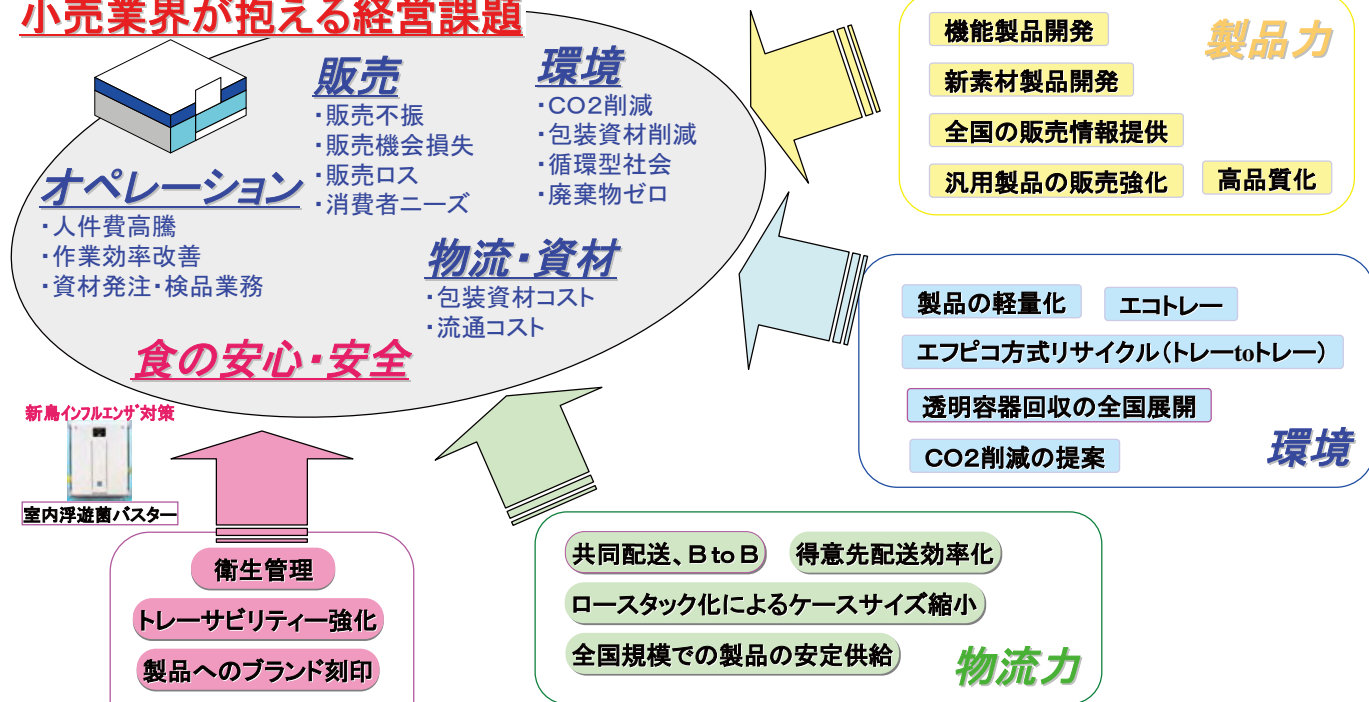
顧客満足度の向上と、
 生産性のUP・物流効率のUP

主要カテゴリ別にマーケット分析 ⇒ 品目の絞り込みと新製品投入により
 // にメーカー分析 マーケットニーズにより即した製品ラインナップへ

約9,000アイテム ⇒ 約7,000アイテム ⇒ 約6,000アイテム(2009年3月末)目標

2008年9月末時点で約7,000アイテムへ絞り込み

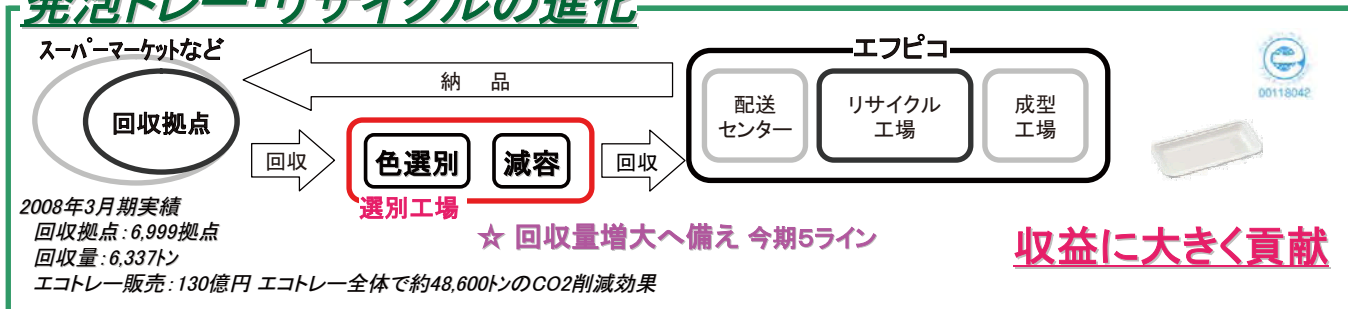
小売業界が抱える経営課題



小売業界の課題解決を強力にサポート

トレー・リサイクルと透明容器回収

発泡トレー・リサイクルの進化



透明容器の自主的な回収の全国展開



「20年前の消費者運動」を考え、最大のリスクに備える

社会貢献と企業活動

企業と地域との結びつきを強め、障がい者雇用の場を全国に展開

特例子会社 ●

- ▶ '86/1 (株) ダックス PSP容器成型
 - ▶ '95/4 (株) ダックス四国 OPS容器成型
 - ▶ '06/8 (株) ダックス佐賀 明太子容器へのウレタン貼付
- 弊社障害者雇用率 = **10.74%** (法定雇用率 = 1.8%)
障がい者雇用者数 = **52名** 2008年3月末

折箱タイプ容器の組立工場 就労継続支援A型 ●

- ▶ '06/10 広島愛パック (株)
 - ▶ '07/3 エフピコ愛パック (株) 福山工場
 - ▶ '07/8 " 佐賀工場
 - ▶ '07/9 " 岐阜工場
 - ▶ '07/9 " 茨城工場
 - ▶ '07/10 " 山形工場
 - ▶ '08/11 予定 " 北海道工場
- 障がい者雇用者数 = **88名** 2008年9月末



発泡トレイ・透明容器 選別工場 設立 ★

- ▶ '08/8 関東選別センター 就労継続支援A型 透明 2ライン
- ▶ '08/10 西宮選別センター 就労継続支援A型 透明 1ライン PSP 1ライン
- ▶ '08/10 中部選別センター 就労継続支援A型 透明 1ライン
- ▶ '08/12 福山選別センター 就労継続支援A型 透明 4ライン PSP 2ライン
- ▶ '08/12 金沢選別センター 地元社会福祉法人 PSP 2ライン
- ▶ '09/1 九州選別センター 就労継続支援A型 透明 1ライン

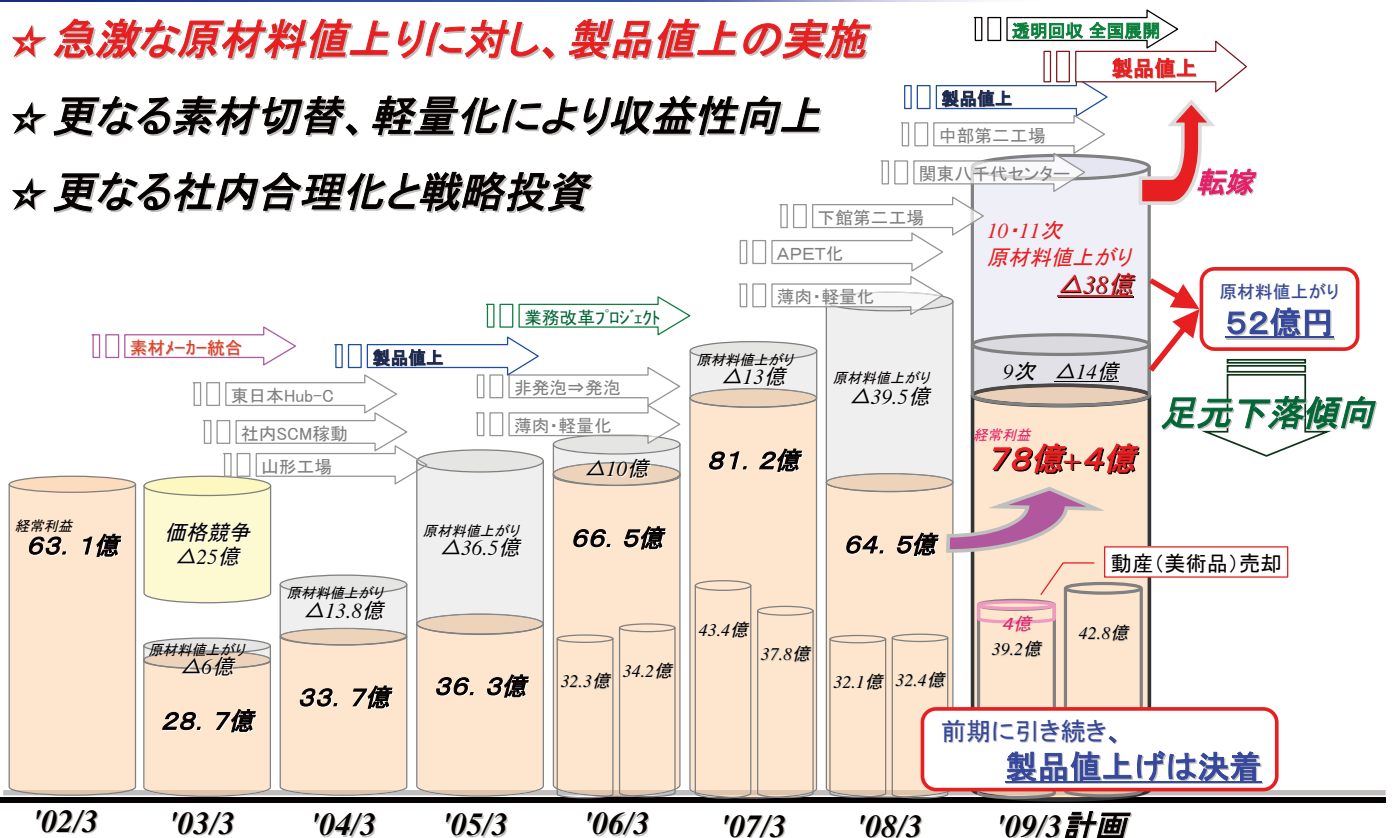
愛パック選別工場で今期 64名の雇用を計画



経済的・環境的・社会的側面での、企業価値の拡大を目指す

中期経営計画 見通し

- ★ 急激な原材料値上りに対し、製品値上の実施
- ★ 更なる素材切替、軽量化により収益性向上
- ★ 更なる社内合理化と戦略投資



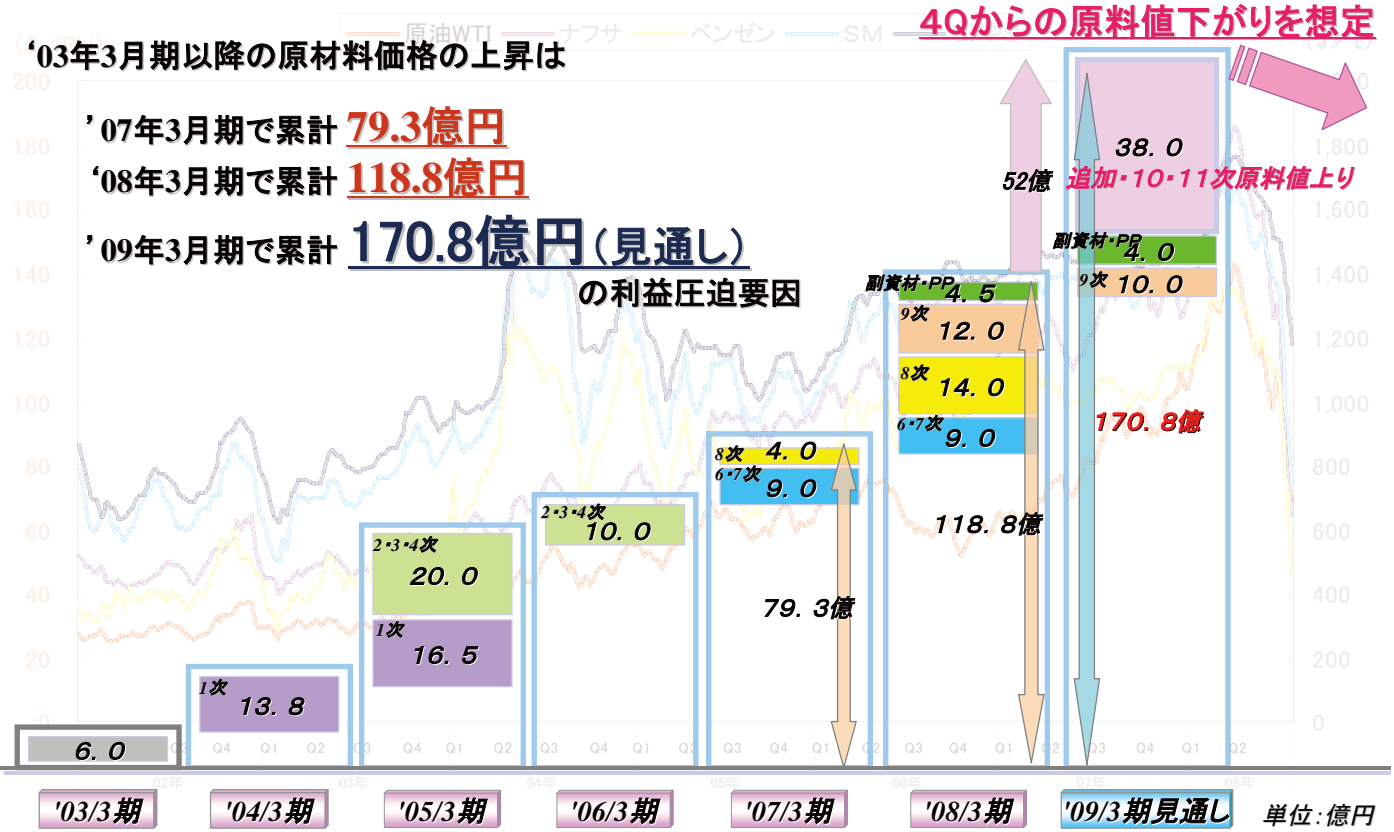
企業価値拡大へ向けて 中期経営計画の進捗状況

代表取締役副社長
佐藤 守正

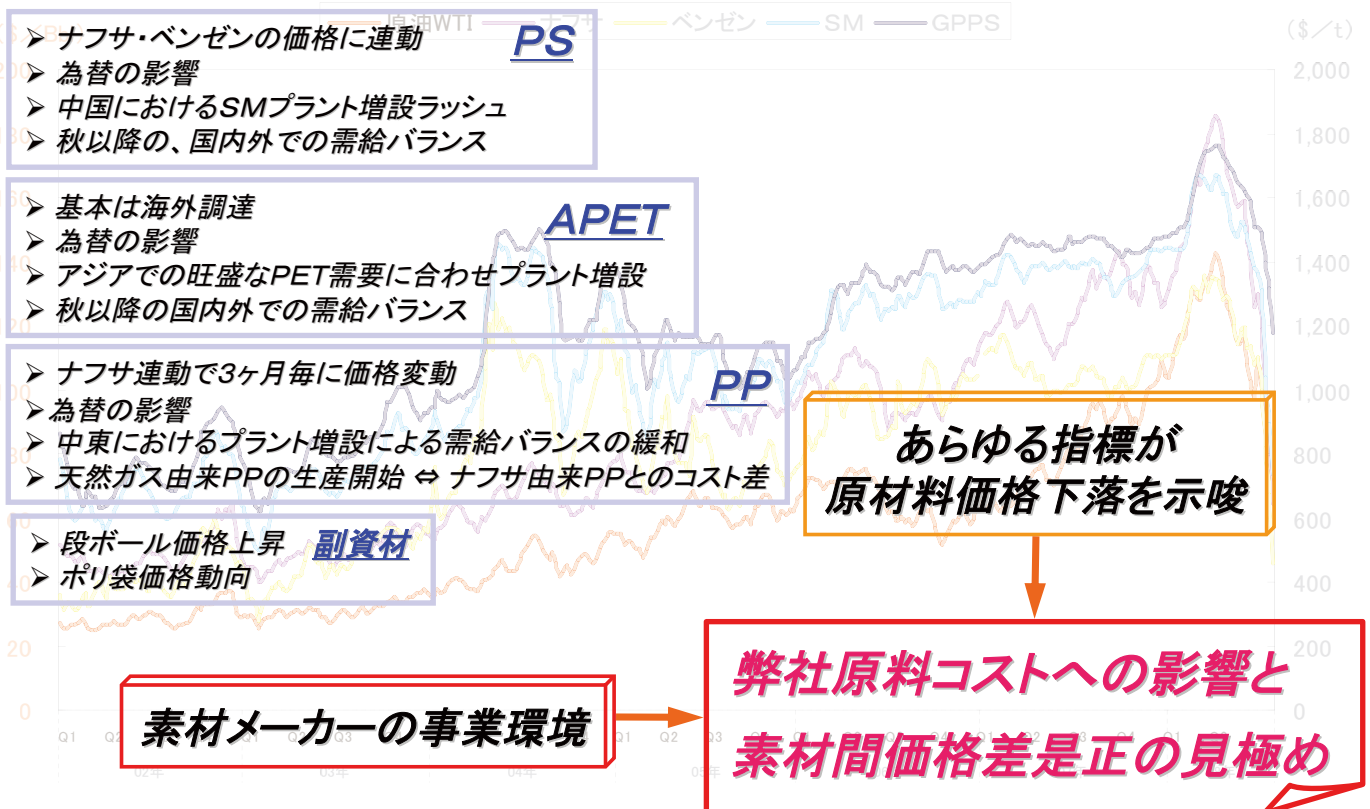
度重なる原材料価格の高騰と急激な下落



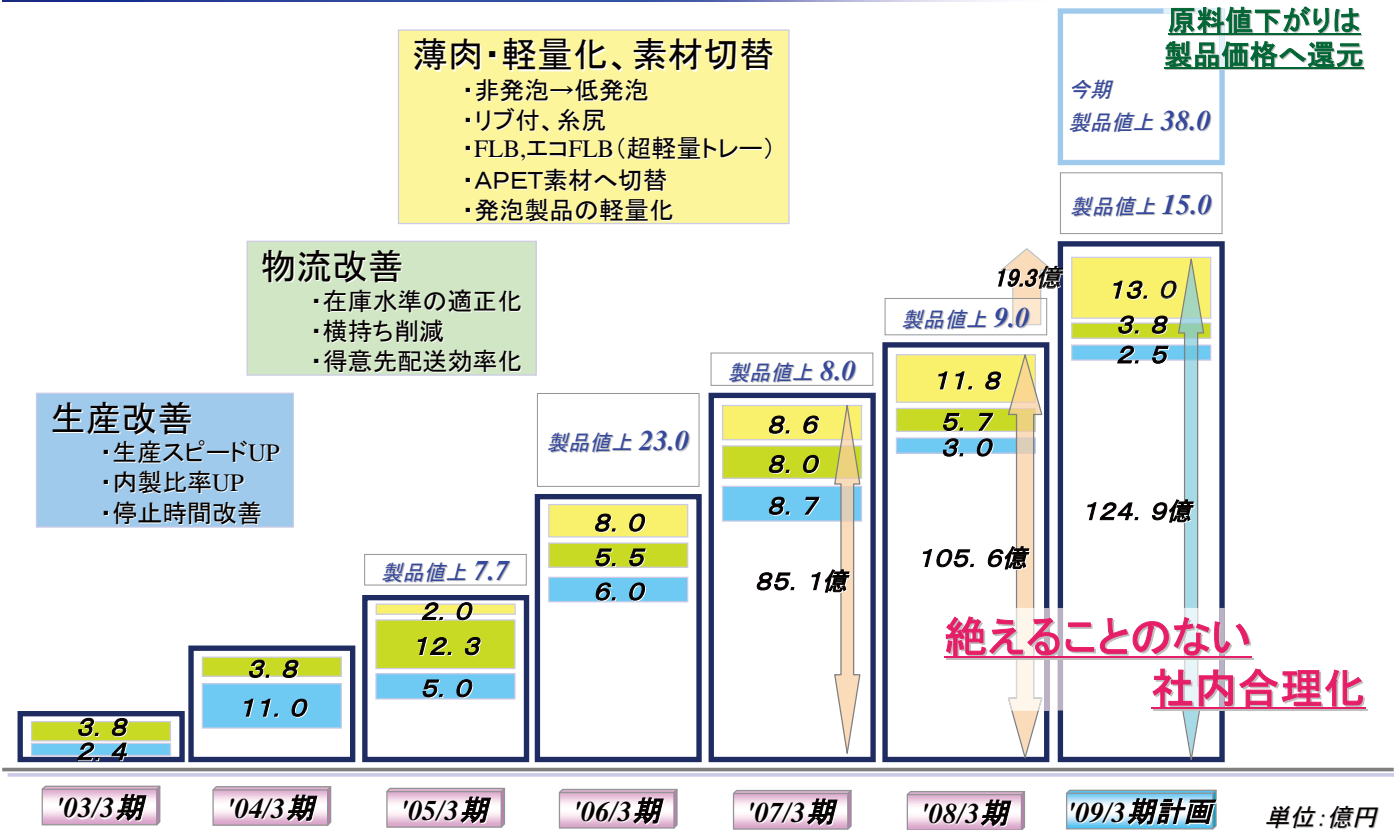
原材料価格上昇の影響



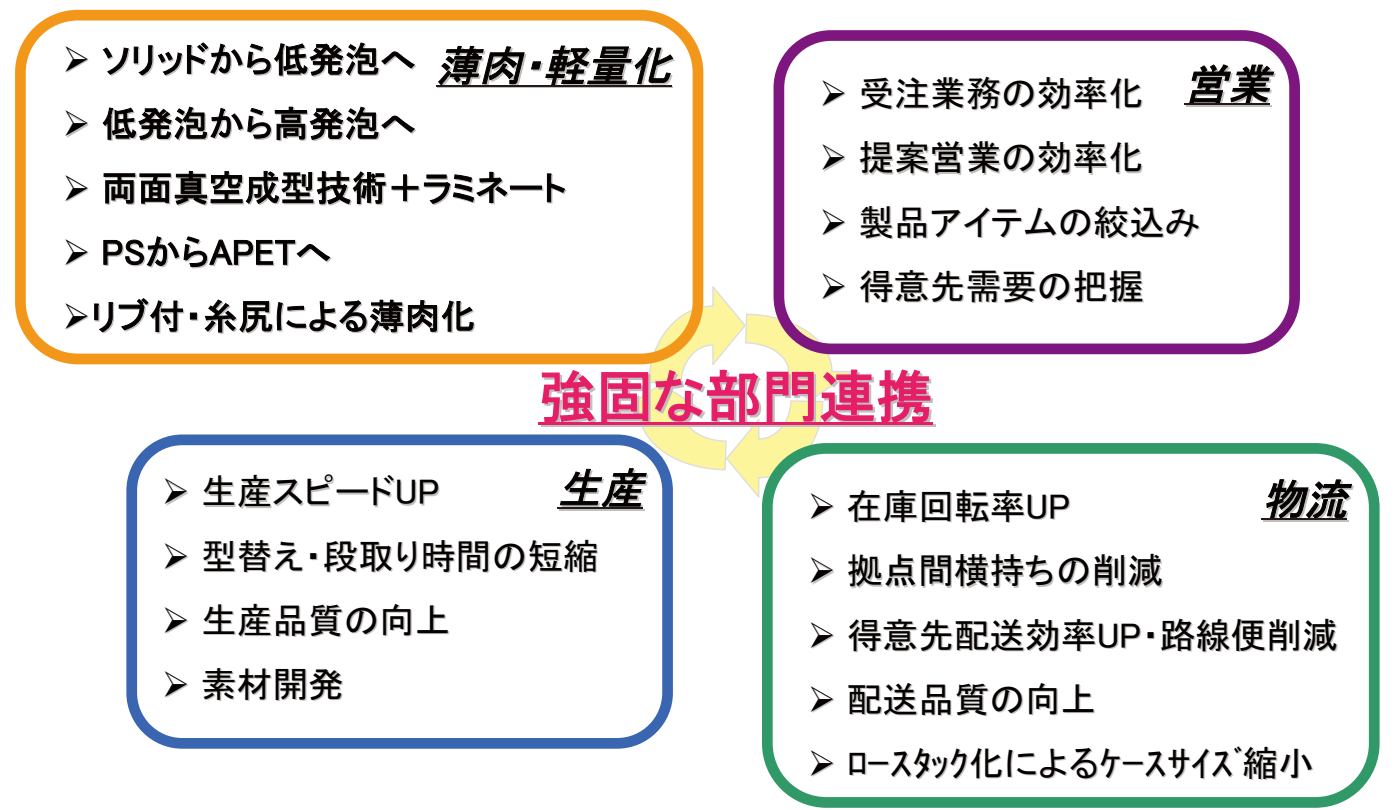
エピコを取巻く原材料の状況



社内合理化施策



徹底した社内合理化



ベストコストの飽くなき追求

☆ 技術革新と設備のスクラップ&ビルド

☆ 品質向上と技術の底上げ

稼働率	上期	下期計画
PSP	+ 5.5%	+ 4.4%
OPS	+ 4.7%	+ 3.8%
APET	+ 0.3%	+ 0.7%
全体	+ 4.0%	+ 3.1%

1 段取り時間の削減
2 トラブル調整停止時間の削減

⇒ ・ モノづくり革新活動
・ 技能塾の開設

上期 25名卒業 下期 22名入塾

製品効率	上期	下期計画
PSP	+ 0.1%	+ 0.2%
OPS	+ 0.2%	+ 0.2%
APET	- 0.1%	- 0.1%
全体	+ 0.3%	+ 0.3%

1 トラブル調整停止低減によるロス削減
2 3機スタート時ロス削減

時間当りショット数	上期	下期計画
PSP	+ 4.8%	+ 5.5%
OPS	+ 1.2%	+ 3.2%
APET	+ 7.8%	+ 2.3%
全体	+ 4.0%	+ 4.1%

1 製品別ベストサイクルへの挑戦
2 設備更新・改造を計画的に実施

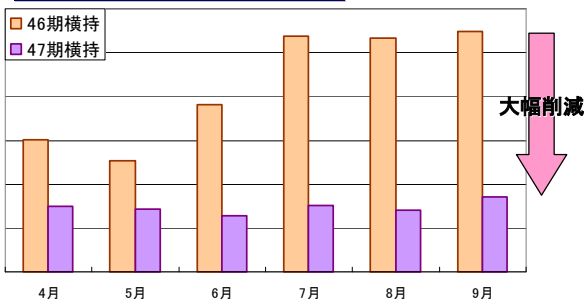
生産・物流

資産効率を高める

☆ 計画生産の精度向上により消費地生産比率の向上

☆ 需要と供給のバランス改善により路線出荷・横持コスト削減

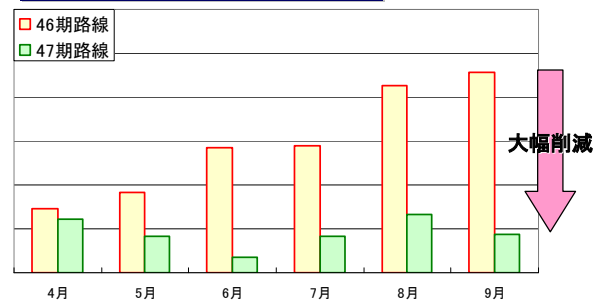
汎用トレイ横持ち費用 推移



汎用トレイ横持ち

上期 昨年対比 34.6%へ大幅削減

汎用トレイ路線出荷費用 推移



汎用トレイ路線出荷

上期 昨年対比 30.3%へ大幅削減

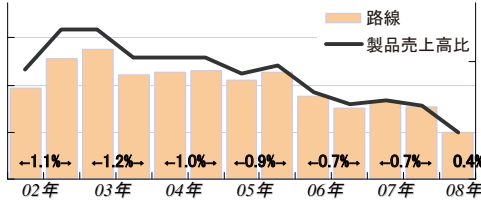
汎用トレイ 拠点出荷率 99.3%

物流

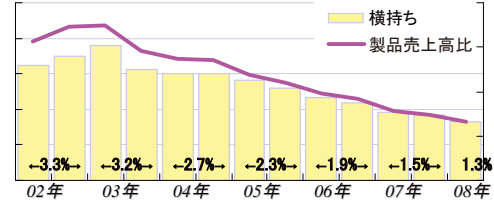


- ☆ 生産/保管/横持/金型移動等のトータルコストコントロールにより
在庫水準の適正化、及び横持ちコストを削減
- ☆ 配送ネットワークの最適化により得意先配送運賃削減
- ☆ 倉庫内業務の見直しにより荷役コスト削減

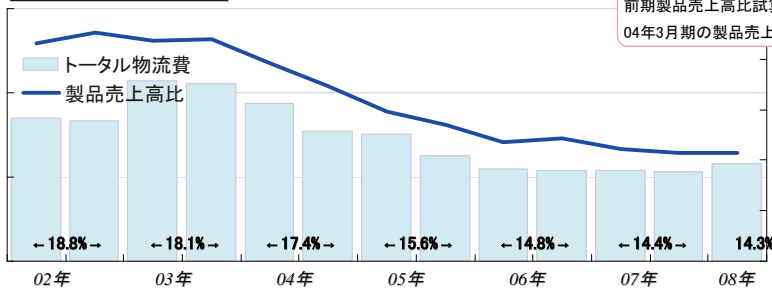
路線コスト 推移



横持ちコスト 推移



トータル物流費 推移



'07年3月期

前期製品売上高比試算で ⇒ **7.7億円**の削減効果
04年3月期の製品売上高比試算で ⇒ **38.3億円**の削減効果

'08年3月期

前期製品売上高比試算で ⇒ **4.0億円**の削減効果
04年3月期の製品売上高比試算で ⇒ **43.5億円**の削減効果

'09年3月期 見込み

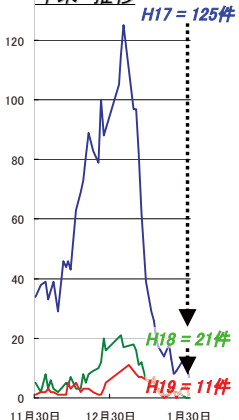
前期製品売上高比試算で ⇒ **2.1億円**の削減効果を見込む
04年3月期の製品売上高比試算で ⇒ **47.1億円**の削減効果を見込む

物流

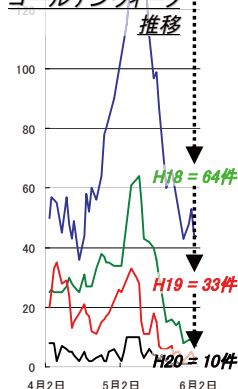


- ☆ ピッキング品質・配送品質を初めとした、サービスレベルの向上
- ☆ SCMの精度向上により、欠品による機会ロスと後戻りコスト削減

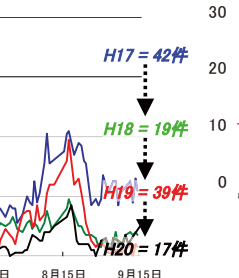
年末 推移



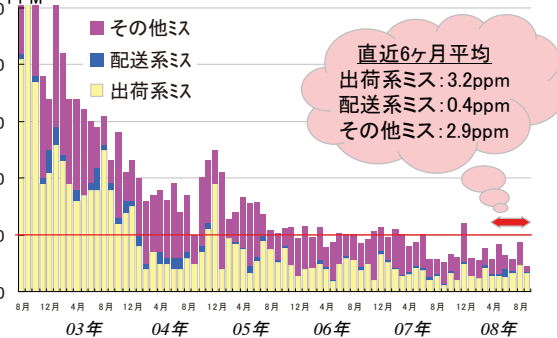
ゴールデンウィーク 推移



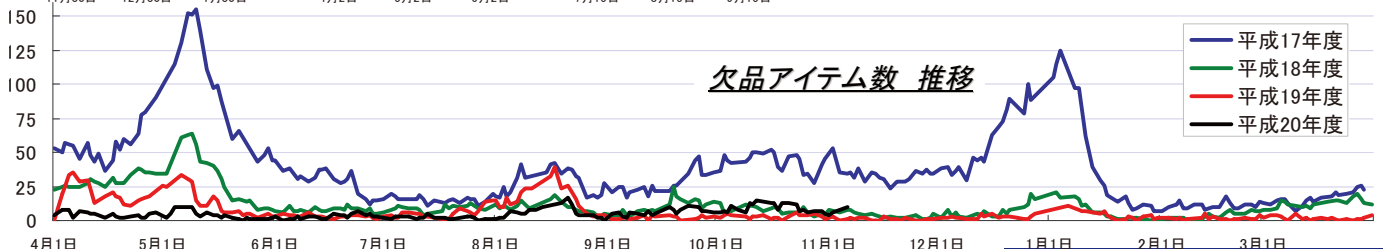
お盆 推移



ピッキング・サービスレベル 推移



欠品アイテム数 推移



FLB 軽量化



エコトレーも16年間で30%超の軽量化
ラミネート技術を活用して、現在のFLBシリーズへと進化させてきました。

汎用トレー変遷	1992年 RA・LAシリーズ	5.00g
	2000年 RA・LSシリーズ	4.50g
	2003年 エコFLSシリーズ	4.34g
	2007年 エコFLBシリーズ	3.75g
	2008年 エコFLB新シリーズ	3.52g
	エコFLB新々シリーズ	3.41g



カラートレーの先駆者として培った

ラミネート技術

PSPにおける金型・成型機

両面真空成型技術

PSP原反・フィルム

素材開発力

汎用トレーにおいても、総合技術で他社の追隨を許さない

⇒ 価格も含めトータルで競争力のある製品作り



新たなるステージへ 生産・技術



★ 素材、原反、フィルム、金型、成型、
 総合技術で、更なるコスト削減
 // 更なる機能アップ

◆ 新耐熱透明容器の開発

◆ 漏れにくい容器の開発

※ 原材料コスト下落
 ※ 素材間価格差の是正

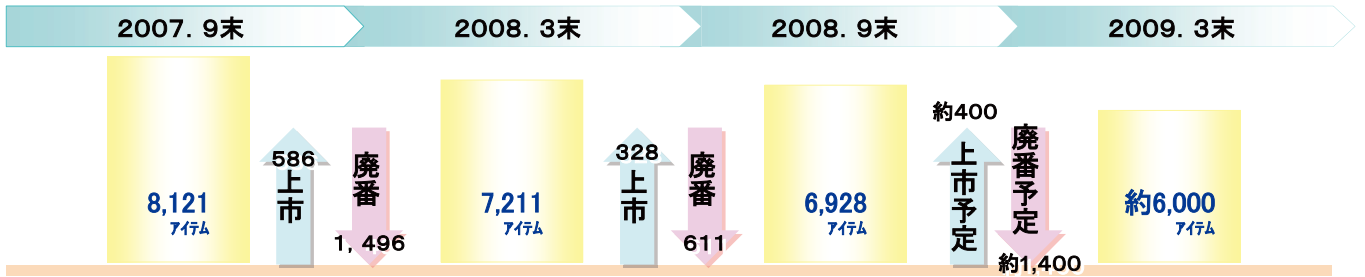


◆ 高品質化

◆ 製品群の素材構成見直し



新たなるステージへ 製品アイテム絞込み



汎用トレー集約を継続

FLS、FKS、FSS、
LA、FA、S&S
FP、LS、FLB



'08年9月末280型/1,400アイテム ⇒ 70型/540アイテム

売れてないシリーズをカット

売れてない製品をカット

分散する柄を集約

分散するシリーズを
新規開発製品に集約

顧客満足度の向上が大前提

あらゆる面における改善効果を目指す

生産

- ・ 型替回数・段取り時間削減
- ・ 資材ロス削減
- ・ 生産ロット単位の生産量UP
- ・ 製品品質向上

物流

- ・ 在庫回転率UP
- ・ 保管効率UP
- ・ 欠品リスク低減
- ・ 拠点間横持ち低減

管理

- ・ 需給管理工数削減
- ・ 生産、資材 管理工数削減

新たなるステージへ サプライチェーン

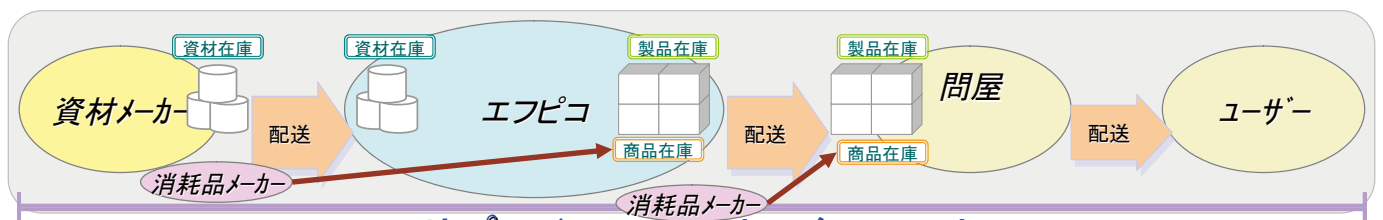


★ 包装資材業界全体でのコスト削減

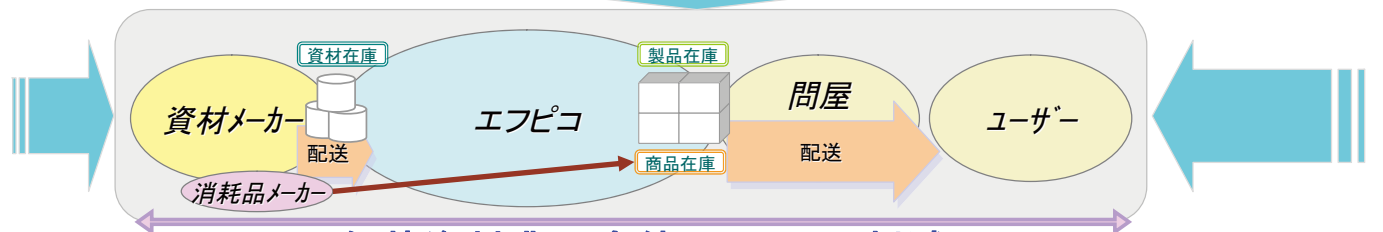
- ・ 受発注～決済のプロセスの見直し
- ・ 流通全体での在庫の圧縮

社内SCMから真のSCMへ

- 〃 配送網の共同利用
- 〃 荷役作業の合理化



サプライチェーン・トータルコスト



包装資材業界全体でのコスト削減

⇒ 弊社製品に加え消耗品全般へ展開

メーカー企業としての 3本柱 を追求



企業基盤をより強固に

企業価値と競争力を高める

業績予想
2009年3月期 通期

販売計画(2009年3月期 通期)



数量伸長率(枚数)

単位:百万円

	実績 08/3期		見通し 09/3期		増減	前年比	計画 09/3期	
		百分比		百分比				百分比
ト レ ー 容 器	27,548	21.9	29,070	22.3	+ 1,521	103.5%	28,570	22.1
弁 当 容 器	65,317	52.0	69,770	53.5	+ 4,452	102.0%	70,270	54.5
そ の 他 製 品	1,364	1.1	1,080	0.8	△ 284	79.1%	1,080	0.8
【 製 品 】	94,231	75.1	99,920	76.7	+ 5,688	102.6%	99,920	77.5
包 装 資 材	19,341	15.4	17,900	13.7	△ 1,441	92.5%	17,900	13.9
そ の 他 商 品	11,940	9.5	12,513	9.6	+ 572	104.8%	11,180	8.7
【 商 品 】	31,282	24.9	30,413	23.3	△ 869	97.2%	29,080	22.5
【 売 上 高 】	125,513	100.0	130,333	100.0	+ 4,819	103.8%	129,000	100.0

- ・製品出荷枚数 下半期は前年比104%伸長を見込む(通期前年比102.6%)
- ・PSP高発泡化製品のさらなる上市および高付加価値製品や新機能製品の開発上市
- ・マーケットのニーズにより即した製品構成で、秋冬、春の新しい売り場提案
- ・「上質と日常」といったマーケットの2極化を見据え、汎用製品の投入にも注力

決算計画概要(2009年3月期 通期)



単位:百万円

	実績 08/3期		見通し 09/3期		増減	前年比	計画 09/3期	
		百分比		百分比				百分比
【 純 売 上 高 】	125,513	100.0	130,333	100.0	+ 4,819	103.8%	129,000	100.0
製品売上高	94,231	75.1	99,920	76.7	+ 5,688	106.0%	99,920	77.5
商品売上高	31,282	24.9	30,413	23.3	△ 869	97.2%	29,080	22.5
【 営 業 利 益 】	5,987	4.8	7,805	6.0	+ 1,817	130.4%	7,400	5.7
【 経 常 利 益 】	6,453	5.1	8,205	6.3	+ 1,751	127.1%	7,800	6.0
【 税 引 前 利 益 】	6,581	5.2	8,085	6.2	+ 1,503	122.8%	7,800	6.0
【 当 期 利 益 】	4,157	3.3	4,940	3.8	+ 782	118.8%	4,680	3.6

- 販売面: 製品全体の見直しを行い品目の絞込みと新製品の投入
価格競争に巻き込まれない当社独自の販売戦略に注力
- 技術面: 素材の薄肉化、製品の軽量化をはじめとした生産コストの削減。
- 生産面: 生産性および品質の向上に取り組み、需要拡大に対応した生産能力の拡大と生産拠点の最適化。
- 物流面: 需要に即した供給体制の構築。在庫水準の適正化、横持ち・保管にかかわるコストの低減。
- 環境面: 社会全体を視野に入れた環境負荷削減の取組み。
透明容器の自主的な回収を本格的に開始し全国に展開。

設備投資および研究開発費計画(2009年3月期 通期)



単位:百万円

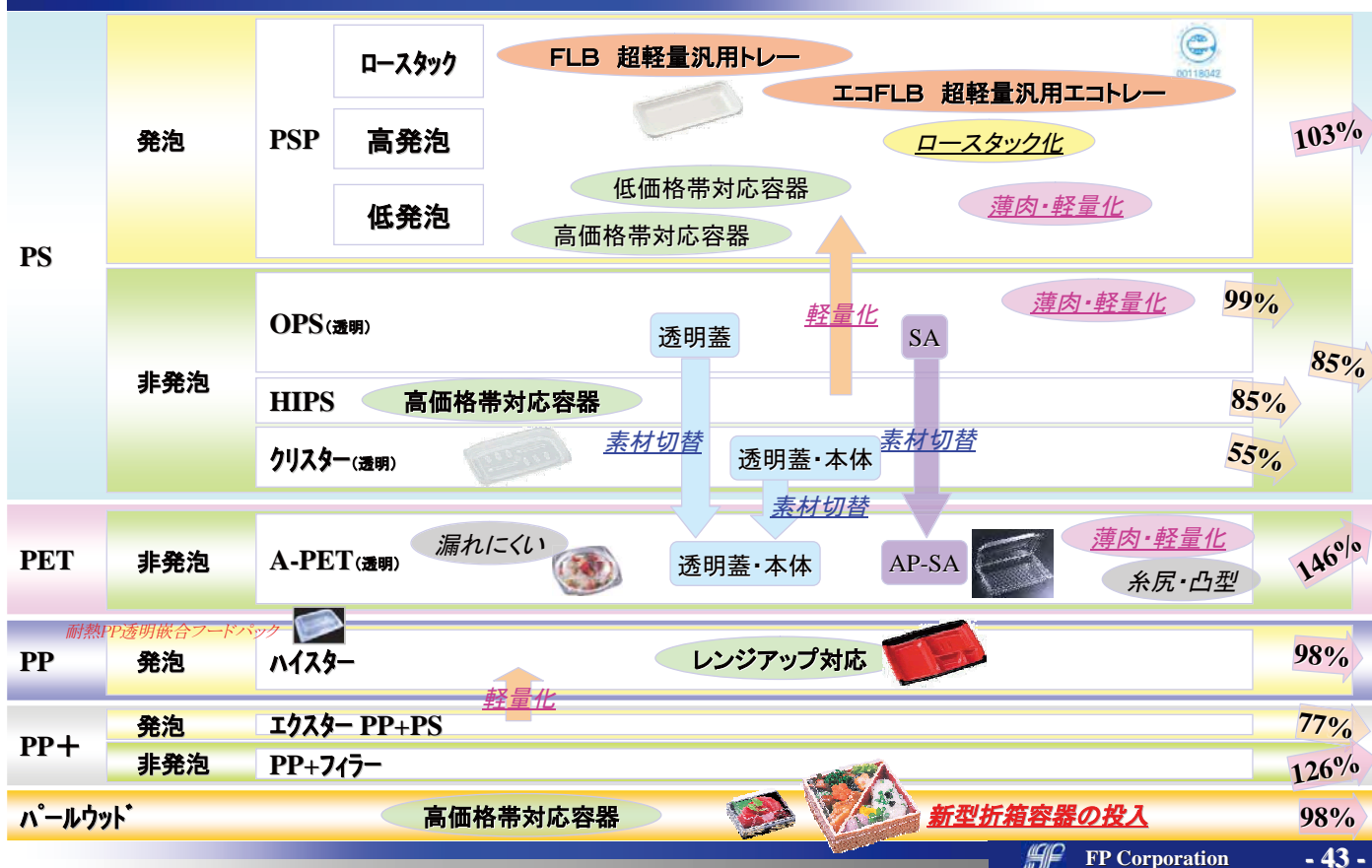
		実績 08/3期	見通し 09/3期	増減	前年比	計画 09/3期
設備投資	有形固定資産	10,655	9,300	△ 1,355	87.3%	8,000
	内、土地	1,150	1,400	+ 250		400
	無形固定資産	254	550	+ 296	216.5%	500
減価償却費		4,742	5,000	+ 258	105.4%	5,000
研究開発費		913	950	+ 37	104.1%	950

おもな設備投資

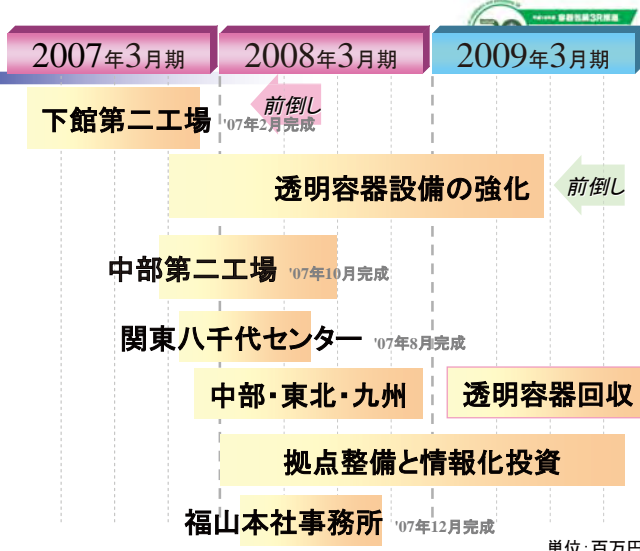
◆福山新倉庫および福山容器回収選別工場	1,574百万円	※土地を含む
◆透明容器設備の強化	746百万円	
◆金型	555百万円	
◆北海道配送センター	1,070百万円	
◆透明回収選別工場 等	934百万円	
◆IT投資	747百万円	

添付資料

素材別 製品販売状況



設備投資と研究開発



成長への戦略投資

- 関東生産拠点の再編 耐熱発泡製品需要の拡大 (38億円)
- APETの市場拡大 (53億円)
- 中部生産拠点の拡充 (33億円)
- 物流機能の拡充 (15億円)
- リサイクル工場の整備 (13億円)
- 生産拠点の再編 情報化基盤強化
- 福山本社事務所 (13億円)

設備投資	有形	2007年3月期				2008年3月期			2009年3月期		
		'03年3月期	'04年3月期	'05年3月期	'06年3月期						
		6,138	4,248	2,621	2,156	9,523	10,655	9,300			
	無形	958	789	120	238	362	251	550			
内金型		780	460	436	600	771	658	550			
減価償却		3,339	4,201	4,134	3,964	4,195	4,742	5,000			
研究開発		654	628	689	751	895	913	950			
											計画

単位: 百万円

中期経営計画 経常利益増減要因



		'07年3月期 実績	'08年3月期 実績	'09年3月期 計画
経常利益 66.5億		81.2億	64.5億	78億+4億
経常利益増減		+14.7億 上期+11.1億、下期+3.6億	△16.7億 上期△11.3億、下期△5.4億	+13.5億+4億 上期3.2億円+4.0億円、下期9.5億円
プラス要因	社内合理化	25.3億 上期14.6億、下期10.7億	20.5億 上期7.5億、下期13.0億	19.3億 上期8.3億、下期11.0億
	生産改善	8.7億 上期4.9億、下期3.8億	3.0億 上期2.0億、下期1.0億	2.5億 上期0.5億、下期2.0億
	物流改善	8.0億 上期4.5億、下期3.5億	5.7億 上期2.5億、下期3.2億	3.8億 上期1.8億、下期2.0億
	素材切替、超軽量化 薄肉・軽量化	8.6億 上期5.2億、下期3.4億	11.8億 上期3.0億、下期8.8億	13.0億 上期6.0億、下期7.0億
	販売面	9.8億 上期2.4億、下期7.4億	12億 上期2.0億、下期10.0億	17.5億+42.0億 上期11.5億+7.0億、下期6.0億+35.0億
	売上増加・ミックス改善	5.8億 上期2.4億、下期3.4億	3.0億 上期2.0億、下期1.0億	2.5億+4.0億 上期0.5億+4.0億、下期2.0億
製品値上 陥没価格は正	4.0億 上期0.0億、下期4.0億	9.0億 上期0.0億、下期9.0億	15.0億+38.0億 上期11.0億+3.0億、下期4.0億+35.0億	
マイナス要因	原料価格上昇	△13.0億 上期△1.0億、下期△12.0億	△39.5億 上期△19.0億、下期△20.5億	△14.0億+38.0億 上期△11.0億+3.0億、下期△3.0億+35.0億
	6,7,8次原料価格上昇	△13.0億 上期△1.0億、下期△12.0億	△23.0億 上期△17.0億、下期△6.0億	
	9次原料価格上昇、副資材価格上昇		△16.5億 上期△2.0億、下期△14.5億	△14.0億 上期△11.0億、下期△3.0億
	10・11次原料価格上昇、副資材価格上昇			△38.0億 上期△3.0億、下期△35.0億
固定費増加、等	△7.3億 上期△4.8億、下期△2.4億	△9.8億 上期△1.9億、下期△7.9億	△9.3億 上期△5.7億、下期△3.6億	

過去半年間のTV放映・雑誌掲載 履歴



年月日	媒体	番組名	内容
2008年6月13日	朝日放送	「ムーブ！」	特集「資源高騰が生んだ！ 画期的新技術」コーナーで、当社の食品トレー軽量化技術が紹介されました。
2008年7月1日	NHK	「お好みワイド」	特集「原油高を乗り切れ」にて当社が紹介されました。
2008年7月13日	NHK総合	「くると日本」	同上
2008年7月24日	RCCラジオ	「本名正憲のきょうもゴイチ」(広島)	県内の元気企業として、社長小松が生出演しました。
2008年8月17日	NHK総合	「経済羅針盤-総集編」	同番組の上半期総集編。今年2月放映分を再編集して放映。
2008年10月5日	テレビ東京	「トコンハテナ」	民間リサイクル事業の成功例として、当社のエフピコ方式「トレー-to-トレー」リサイクルが紹介されました。

年月日	媒体	タイトル	内容
2008年10月20日	NAVIS(みずほ情報総研広報誌)	改革のフロンティア	リサイクルをはじめとする様々な先行投資が、逆風をチャンスに変えていると取り上げられました。

年月日	媒体	見出し	内容
2008年5月26日	西日本新聞	佐賀県/知的障害者6人が入社 雇用拡大 エフピコで式典	「エフピコ愛バック佐賀工場」での入社式の模様を紹介され、当社の障がい者雇用拡大が取り上げられました。
2008年5月28日	日本経済新聞(中国)	ポイントインタビュー「食品容器、原油高を好機に」	営業・開発・物流の総合的な合理化効果とリサイクルへの取り組みで逆境を乗り切るとの社長小松のコメントが掲載されました。
2008年6月9日	化学工業日報	グローバル調達強化 エフピコ素材シフトを加速	当社がグローバル調達を強化し、透明容器-蓋分野でのA-PEシートの製品へのシフトを加速していると取り上げられました。
2008年6月21日	日本経済新聞	金利上昇に抵抗力ある銘柄	当社が、金利上昇に抵抗力があり09年3月期の増益率が高い企業としてランキングされました。
2008年7月24日	日本経済新聞	樹脂加工品、一斉値上げ	合成樹脂の価格高騰による、トレー-フォーム加工品メーカー各社の値上げ動向が紹介されました。
2008年8月2日	日本経済新聞(中国B)	製造業 値上げ広がる	中国地方の製造業各社の値上げ動向が取り上げられました。
2008年8月5日	日本経済新聞	第21回日経ニューオフィス賞を決定	「日経ニューオフィス賞」にて、当社の福山本社新社屋が中国ブロックのニューオフィス推進賞を受賞しました。
2008年8月6日	日経産業新聞	第21回日経ニューオフィス賞を決定	同上
2008年8月9日	山陽新聞	エフピコ 再生トレー事業強化	改正容器包装リサイクル法に対応し、当社が透明容器リサイクルを強化し再生対象を拡大していると紹介されました。
2008年8月28日	日刊工業新聞Newsウェブ21	茶袋配合の弁当容器を開発	当社グループ会社、エフピコチューバは伊藤園と共同で、茶袋入り紙製弁当容器を開発。環境への取り組みを強化していると取り上げられました。
2008年8月28日	岐阜新聞	障害者就労に協力訴え 羽島で岐阜圏域支援フォーラム	当社グループ会社のダックス西園社長且田が「障がい者を真の企業戦力に」と題し講演した模様を紹介されました。
2008年9月15日	包装タイムス	連載企画「時代を挑む」(業界実力者により現状認識)	原材料価格高騰の中、製品の軽量化をはじめとした合理化を図り、リサイクル事業-障がい者雇用の拡大などに取り組むとの社長小松のコメントが紹介されました。
2008年10月6日	包装タイムス	エフピコ 新製品がさらに拡充	中身の訴求効果を向上し、顧客ニーズに対応した新柄・新形状の新製品を拡充していると取り上げられました。
2008年10月18日	中国新聞	エフピコが増配	08年9月中旬間配増配を当初の1株28円から33円に増配すると取り上げられました。
2008年10月30日	FujiSankei Business i	【注目株】中食関連 景気減速が追い風	「中食」市場の成長から景気減速の中でも、高水準を維持し逆行していると取り上げられました。